

静岡 2017年(平成29年)3月8日(水)

NPO法人 グラウンドワーク三島

求む「災害復旧職人」

派遣組織誕生 報酬支給 登録目標は100人

地震や水害の被災地に屋根職人や大工を派遣する組織「災害復旧職人派遣協会」が誕生し、登録する職人と資金を提供する賛同者を



熊本地震被災地で屋根にシートを張る職人＝熊本県大津町で(グラウンドワーク三島提供)

三島市のNPO法人・グラウンドワーク三島(GW三島)が募っている。熊本地震では建物は無事だが瓦が落ちた家も多数あった。GW三島の渡辺専務理事は「熊本では雨漏りと水道を直した公民館に住民が避難し炊き出しもした。被災地で職人は重宝される」と説明する。登録した職人を被災地に派遣。屋根や家、水道などを直してもらい、8000～1万5000円の日常を支払う。GW三島と日本ステンレス工業(山梨県大月市)は昨年の熊本地震で熊本県大津町に職人を派遣し、136軒の屋根にシートを張

るなどした。当時は無報酬だったが、職人は個人事業主も多く無報酬では持続的活動が不可能なので、報酬を支払う仕組みを作った。協会は非営利の一般社団法人として1月に大月市で発足し、日本ステンレス工業内に2月下旬に山梨事務局が開設。山梨では40人の職人が登録済みで、約20社から約300万円寄付が集まる見込みという。GW三島は静岡事務局。静岡側だけで職人100人の登録と1000万円を目標に基金を募る。渡辺専務理事は「職人10人を10日間派遣できる態勢をまず作りたい。防災先進県・静岡にも職人のネットワークができれば」と話している。問い合わせはGW三島(055・983・0136)。

【石川宏】